



Minami Wakayama
Medical Center

Vol.60

発刊：令和4年1月

南 輝

なんき

独立行政法人国立病院機構 南和歌山医療センターだより



熊野本宮大社

基本理念 思いやりのある医療を実践します。

あなたの権利を尊重し
あなたを中心とした
あなたに適した医療を提供します

1. プライバシーの尊重を実践します。
2. 親切・丁寧なケアを実践します。
3. わかりやすい説明と納得による診断治療を実践します。
4. 地域医療機関との連携強化を図ります。
5. 自ら研鑽に努め、良質な医療の提供に役立てます。



Minami Wakayama
Medical Center

南和歌山医療センターの基本理念である
『思いやりのある医療を実践します』に基づき、

1. 明るく (A)
2. 挨拶があり (A)
3. 愛のある (A)
4. アカウンタビリティ (納得説明義務) (A)

の4つの頭文字のAを基本デザインとしています。

これは丸みをおびた形でやさしさを表現し、4つの理念が集まることで、空 (明るい未来) に向かって羽ばたく鳥を表しています。4つのカラーは黄色が明るさ、赤が愛、青と緑は南和歌山の自然の象徴である綺麗な海と、山を表現し、南和歌山医療センターの環境の良さもアピールしています。

受診者の皆様の義務

- 南和歌山医療センターは受診者の皆様と病院の双方がお互いに尊敬し、協力し合うことが安全かつ良質な医療の提供につながるものと考えます。
受診者の皆様には以下の事項に合意し、守っていただく必要があります。
1. 安全かつ最善の診療のためにご自身の身体や必要事項に関する情報を、私たち職員に正確に伝えていただくこと
 2. 検査・治療は説明を受け、納得・合意の上で受けていただくこと
 3. 当院は近隣の医療機関と連携して専門性の高い医療を提供する急性期病院である。救命救命、がんに対する医療と緩和ケアを提供する病院の役割をご理解の上、診療体制維持に協力いただくこと
 4. 病院内では静粛を保ち、院内のルールに従っていただき、他の来院者や入院中の方に迷惑をかけることのないよう配慮していただくこと
 5. 病院内ではお互いに礼儀正しく思いやりのある態度で接していただくこと
 6. 医療費の支払い請求を受けたときは遅滞なくお支払いいただくこと

受診者の皆様の権利

- 患者としてあなたには
1. 良質で公平な医療を受けられる権利があります。
 2. 人格や価値観を尊重される権利があります。
 3. 個人情報を守られる権利があります。
 4. 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
 5. 治療法を選択できる権利があります。
 6. 治療法について、第三者の意見を聞くことが出来る権利があります。
 7. 貴方の診療記録の開示を求める権利があります。

新年のご挨拶

院長 中村 善也



新年明けましておめでとうございます。

一昨年、昨年とコロナ感染症、気候変動、自然災害など、これまでに経験したことがないような予測困難な事態が再三生じていますが、とりわけ対応が困難なコロナ感染症に対して、これまで当センターが行ってきた取り組みをご紹介します。

①コロナ検査体制の充実

一昨年8月より、抗原定量検査、PCR検査体制が整い、特に抗原定量検査は緊急時間外にも施行出来るようになり、入院患者様や手術・検査の患者様、全員に検査が出来るようになりました。また、ドライブスルー方式によるコロナ疑い患者様への検査体制も整えました。これらにより、これまでコロナ感染の院内持ち込みは1例も生じておりません。

②コロナ診療病床の整備

コロナの重症・中等症患者様用3床、軽症患者様用38床の計41床を整備、全病床に陰圧装置を完備し、一般病床との完全な分離（ゾーニング）も行っています。また、本館の外に一般患者様と完全に分離した感染症用の診察室も2室設営しております。

③実際のコロナ診療状況

コロナ患者様の受け入れは昨年の第4波から開始し、第5波のピーク時には30名以上の患者様を受け入れ、ステロイド治療や抗体カクテル療法を随時試行してきました。

④コロナワクチン接種

昨年4月より、近隣の医療従事者、医療関連団体への集合接種を開始し、6月からは高齢者接種を1日に約300名、週に1500名程度の接種を8月まで行いました。

⑤一般診療

一昨年の第1波の際には検査体制が整っていなかったこともあり、健診や予定手術、予定検査は少し延期させて頂きましたが、コロナの検査体制が整った一昨年の8月以降は手術・検査の患者様、一般救急の患者様を含め、コロナ以前の診療体制で臨んでおります。

⑥面会制限

面会に関しては、ほとんどの施設が全面禁止にしている中、当センターは厳格な監視体制の下で面会制限（登録家族2名まで、検温、マスク着用、手指消毒、飲食厳禁、15分以内など）を一貫して継続してきました。これによる院内感染は1例も生じておりません。

以上のようなコロナ診療体制を今後も継続していく予定ではありますが、一般の診療体制は基本的にコロナ以前と同様であるとご理解頂ければ幸いです。但し、先にも述べましたように、この予測困難な不確実性の時代ですから、コロナ感染症の状況に応じた「しなやか」な診療体制を迅速に構築していくことが重要であることは論を俟ちません。

今後とも施設運営に対する忌憚のないご意見を頂戴できれば幸甚に存じます。

航空機事故消火救難 総合訓練に参加して

災害医療対策室 島 幸 宏

さる2021年11月6日に南紀白浜空港で航空機事故消火救難総合訓練が行われました。私は裏方として訓練計画から関わらせていただきました。訓練当日は当院から川崎救急災害医療部長、伏木看護師、松葉看護師の3名がDMAT（災害医療チーム）として紀南病院・白浜はまゆう病院のDMAT看護師・事務員とともに参加しました。多数の死傷者が出るような重大事故ではなく、エンジンから出火した航空機から脱出する際に滑り台でケガをした複数傷病者に対して消防職員とともに救護所診療に当たるというシナリオでした。

3病院のDMAT隊員は到着後に川崎部長を中心にミーティングを行い役割分担や消防との関係、安全を確認にした後、ブルーシートに寝かされた傷病者に対して傷病名を判断するために2次トリアージを行いました。搬送は救急車だけでなく、白浜空港を基地とする防災ヘリも活用しました。搬送先としては派遣元の3病院に加えて和歌山医大附属病院（仮想）も調整できました。十数人いた歩行可能な軽症傷病者（緑患者）も救急車と白浜町所有のバス（仮想）を用いて、全ての患者を病院に搬送して終了しました。

MIMMSコース（英国の重大事故災害への医療対応コース）で使用されるCSCATTT（災害対応の基本原則の頭文字）という災害医療の原則にもとづいてスムーズに活動いただきました。空港制限区域内という特殊な環境で空港運営会社との連携・資機材の活用など多くの課題をあぶり出すことができた訓練でした。今後も3病院・地元消防と協力し、様々な災害に対応できるように研鑽していきたいと考えています。



緩和ケア病棟に 安らぎと癒し色を添えて

緩和ケア病棟師長 中 口 千枝子

緩和ケア病棟は、14床全室が個室です。当病棟では、ご家族との時間を大切にその人らしく療養ができるように環境を整えています。例えば、癒し空間として中央フロアーには季節に合わせたディスプレイを飾り、安らぎを感じる花壇の整備など療養環境を追求してきました。その中で私たち看護師の一般病棟と同じ白衣は患者さまにとってどのように映っているのかと考え、「患者さまにとって、緩和ケア病棟が安らぎと癒しを感じられる空間にしていきたい」という思いのもと、環境要因の一つである医療者のユニホームについても院内で相談・検討してきました。

そして、この秋、緩和ケア病棟のユニホームを、柔らかな色合いのスクラブに変更することになりました。新しいユニホームは、医師・男性看護師はパープルグレー、女性はピンク・ブルーラベンダーの優しい色になりました。患者さまからは、「華やかな色があって、明るくなりましたね。」「優しい色で心が安らぎます。」等と、嬉しいお言葉を頂いております。また、スクラブは身ごろや肩回りにゆとりがあり、ミスト浴介助時など抱きかかえる際の肩の突っ張りが無くなり、活動的に看護が行えるようになりました。

新しいユニホームになった緩和ケア病棟で安らぎと癒しを感じて頂き、患者さま・ご家族さまが笑顔で過ごして頂けるよう、精一杯心を込めて看護していきたいと思っております。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。



◀正面



うしろ▶

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

皆様、今年の抱負は何でしょうか？私は、昨年熊野古道を歩いた際、自分の体力の無さを実感しました。私の今年の抱負は、体力を付けるためウォーキング等始めてみようと考えています。皆様も、何か始めてみませんか？

どうぞ、今年も宜しくお願い致します。

教育担当看護師長 福 田 千登勢